本島通信

発行所　〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321（代）
本島通信編集室　R.230623-0628-16
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所　〒632-0093
電話 0743-63-1571（呼）
https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ　午前6時00分
夕づとめ　午後7時00分

「おてぶくぼ」と三銭の下駄のお話

6月大教会教会長会議

立教186年6月22日

大教会長　片山幹太

最近、一番心に残った言葉をご紹介させて頂きます。

それは「おてぶくぼ」です。

増井りん先生のお話に出てくる教祖のお言葉です。少し読ませて頂きます。

「(私は)永らくの間、教祖のお守り役を仰せつかりましたが、その間、特に深く感じさしていただいたのに、この『おてぶくぼ』というのがあります。それは、神様のご食膳に何か珍しいものを差し上げまするとと、神様は、必ずご満足の後、お箸をお取り上げになってから、『てぶくぼ』と仰せられて、ご自身で相手の手の平にそれをお移しになって、共に喜びをお分かちになるのであります。二人居れば二人、三人居れば三人に、それぞれたくさんお移しになって、共にお喜びになるのであります。神様はいかなるときも、決してご自身だけでご満足なさることはなく、皆と共に、お喜びをお分かちになりました。畏れ多いことであります。」（真実の道【ひながた編】より）

また増井りん先生には「三銭の下駄」というお話も残されています。

つとめ場所では、十日間交代で教祖の身の回りのお勤めをさせて頂き、お勤めを終えると今度はおたすけやにをいがけに歩かれました。当時は汽車はなく、履物の助けを借りねばなりません。りん先生は毎月26日、一番安くて丈夫な三銭のハマ下駄を買い、河内や和泉、堺、大阪方面までおたすけに歩き回りましたので、下駄を一ヶ月もたすのがひと苦労でした。そこで夜、おたすけから帰ると、下駄を洗い清めてから壁に掛けて大事に履き、それでも一ヶ月の履き通しではとてももたないので、人の見ていないところではそっと脱いで裸足でよく歩いたとのことです。

この3年余り、コロナ禍により皆が集まって行事をしたり、活動することに制約がありました。その時できることは、一人ひとりに電話なりメールなり手紙で励まし合い、心をつなぐことだったと思います。

教祖年祭活動が始まり、コロナ禍による制約もなくなった現在は、皆で集まって活動することも大切ですが、ようぼく一人ひとりが心を定めて、にをいがけ・おたすけの実行をすることに年祭活動の意義があると思います。

増井りん先生のお話のように、神様の勤めの時間のほかにも、下駄が一ヶ月ですり潰れるほどにをいがけ・おたすけに歩かせて頂く。現代では靴底やタイヤになるかも知れませんが、身を運んで年祭活動の旬を勤めさせて頂きましょう。

（文責・本島通信編集室）

本島大教会三代会長 片山俊次 三十年祭
本島大教会三代会長夫人 片山コズヱ 二十年祭
日時10月21日㈯午後2時執行（本島大教会）

本島大教会 神殿講話(要旨) 【立教186年6月22日】

「親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩」

大教会准役員 片山直明(かたやまただあき)

只今は本島大教会6月月次祭を皆さまと勇んで勤めさせて頂きました。心よりお慶び申し上げます。御命を頂きましたので、届かぬ者ではございますが、お付き合い下さいますようお願いいたします。

「俺、神さん信じられへんねん。」

私には3人の子供がいますが、この言葉は3年前に長男から聞かされた言葉です。

お道では「縦の伝道」と言われますが、恥ずかしながら、私自身が子供に信仰を伝えていないことを指摘されたような、そんな息子からの言葉でした。

そのとき私は、無性に腹が立ちまして、「お前は後継者やぞ。教会はどうすんねん」と、頭ごなしに、しかも息子が言っていた「神様を信じられない」の答えにもなっていない言葉を返してしまいました。

さすがに、この時は息子も頭にきたのだと思います。「お父さんはいつもそうやって自分の意見ばかり押し付けてくる」と言って、その場から出て行ってしまいました。

私はこの出来事から、子供達との向き合い方を見つめ直すとともに、「なぜ信仰を子供達へと伝えることが大切なのか」また「どのように信仰を子供達へ伝えていけばいいのか」その答えを教(おしえ)のお言葉の中に求めました。

おさしづに

「皆夫婦と成るもいんねん、親子と成るもいんねん。どうでもこうでもいんねん無くして成らるものやない。夫婦親子と成り、その中よう聞き分けにゃならん」

(補遺明治34年3月26日)

とあります。

いんねんがあるからこそ夫婦、親子と成ってくるんだよと、教えられるお言葉であります。

ここで「いんねん」について、少しだけ触れておきたいと思います。

「いんねん」には2種類あると教えられます。

一つは各々の個人が持っている「個々のいんねん」。そしてもう一つは、誰もが持っている「元のいんねん」であります。

各々が持っている「個々のいんねん」とは、

「善き事をすれば善き理が添うて現れ、悪しき事をすれば悪しき理が添うて現れる。」

(『天理教教典』第七章かしもの・かりもの)

と教えられるように、「蒔いた種通りの芽が出る」ということであります。

例えば、アサガオの種を蒔くからアサガオの花が咲くのであって、アサガオの種を蒔いてバラの花が咲くことは決してありません。

そして「魂は生き通し」と教えられます。私たちはこれまで生まれ更わりを繰り返す中で、様々な心遣いを使ってきたでしょう。それらの心遣いが蒔いた種として魂に刻まれているということだと思います。

この「個々のいんねん」は、仏教で教えられる因縁とも相通じる考え方と言えます。

しかしながらこの道を信仰する私たちは、忘れてはならない大切な「いんねん」があります。

それは、親神様が人間を創造されたのは、人間が陽気ぐらしをするのを見て神も共に楽しみたいとの思召からであり、人間創造の原因である「元のいんねん」であります。

つまり「個々のいんねん」に表れてくることの根底には、親神様が私たちに陽気ぐらしをさせたいとの「元

のいんねん」があるということであります。

おさしづで「夫婦と成るもいんねん、親子と成るもいんねん」とお教え下さるように、親神様は「元のいんねん」である陽気ぐらしの心になれるように、「個々のいんねん」を見極めて、お互い家族に引き合わせて下さっていると悟ることができると思います。

ですから、夫婦、親子であるお互いは、自分のいんねんから一番相応(ふさわ)しい人であり、一番必要な存在であると悟ることができます。

さて、冒頭でお話しました「神様を信じられない」と言う息子の言葉ですが、実を申しますと私は32歳になるまで、息子と同じように信仰に自信を持てず、なかなか神様を信じきれなかったのであります。

私は26歳で結婚し、それから3人の子供をお与え頂きました。

その当時、夫婦で毎日のように、にをいがけに歩いてはいたのですが、おたすけをしても、おぢばに人をお連れしても、形ばかりで、私自身はどうしても神様を信じることが出来なかったのです。

さらに身の回りに現れてくることにも喜べないことが多く、何のために信仰をしているのか分からず、もう信仰をやめて教会から離れようとも考えていたことがありました。

そのとき当時小学1年生の長男に、命に危険が及ぶほどの身上を見せられたのです。

ある日、息子が「しんどいよ」と体調の異変を訴えてきました。体温がみるみる40度を超え、けいれんと意識障害の症状が起きました。

隣市の大病院に搬送され、様々な検査を受けたのですが、なかなか原因が見つからず、したがってこれといった治療も出来ないまま、依然息子の容態は高熱と意識障害が続きました。

そんな子供の姿を目の当たりにして、親としてこんなに辛(つら)いことはありません。「出来ることなら変わってやりたい」と、居ても立っても居られない心境でありました。

そんな中、さらに信じられないことが起きました。息子が私や妻の顔を見て「誰?」と訊いてきたのです。つまり息子は私たち親のことすら分からなくなってしまいました。

「息子の命は大丈夫なんだろうか…」

「これから先、今までのように元気な姿を見ることができるんだろうか」

私は、不安で目の前が真っ暗になるような思いでした。

この時に私の脳裏をよぎったのが、子供の頃より親から自覚をして通るようにと、繰り返し聞かされていた「我が家のいんねん」でありました。それは、短命のいんねんということです。特に長男に表れてきていたことも聞かされていました。

その姿が実際に目の前で、しかも我が子の身上を通して現れてきていることに気付いたのであります。

それまでの私は、「いんねん」の話を聞かされるたびに「勝手に決めつけるな」と不足ばかりしておりましたが、両親は私のことを思っていたからこそ、小さい頃より何度も伝えてくれていたのだと、深く反省いたしました。

両親に、親のことすら分からなくなってしまった、息子の容態を伝えたところ、「あなた自身が親のことを分からなくなっているのではないか。その姿を子供の身上を通してお知らせ下さっているのではないか」と諭(さと)されました。

私は身体に電気が走る思いがしました。まさにその通りです。私たち人間の親である親神様、教祖を分からない、私自身そのままの姿を、息子の身上を通してお見せ頂いていたことに気づきました。

そして「何のために信仰しているのか」その分からなかった答えを、私の中で見つけたように思いました。

道を歩むことをやめてしまおうとの心得違いをお詫びし、これから先、家族みんなでこの道を歩ませて頂く心を定め、私も妻もおさづけを、とにかく一心に、繰り返し縋(すが)る思いで取り次がせて頂きました。

すると、息子の意識が少しずつ快復し始めたのです。そして、私を見て「お父さん」と呼んでくれました。この時ばかりは嬉しくて涙が止まりませんでした。

入院から一週間ほど経った頃、医師から尿路感染症が原因の「敗血症」であったと診断されました。

「敗血症」とは、何らかの細菌やウィルスが血液を通して全身にまわり、組織障害や臓器障害を引き起こす病気であり、命に危険が及ぶほど、恐ろしい病気であることを知りました。

それからも、とにかくおつとめとおさづけでありました。教会の皆さ

んもお願いづとめを勤めて下さいました。きっと親神様はその願いをお受け取り下さったのだと思います。息子の容態は日に日に快復に向かい、以前と同じように元気な姿に戻ることができました。

成人の歩みの遅い私は、この我が子の身上を通して、親神様、教祖を身近に感じることができ、いんねんの自覚と、信仰の有り難さに心から感謝することができました。

稿本教祖伝逸話篇の「一代より二代」では、

「神様はなあ、『親にいんねんつけて、子の出て来るのを、神が待ち受けている。』と、仰っしゃりますねで。それで、一代より二代、二代より三代と理が深くなるねで。理が深くなって、末代の理になるのやで。人々の心の理によって、一代の者もあれば、二代三代の者もある。又、末代の者もある。理が続いて、悪いんねんの者でも白いんねんになるねで。」

とお教え下さいます。

この逸話篇では代を重ねることの大切さ、喜びをお話下さっています。

ここで教えられる「代を重ねる」とは、「親から子、子から孫へと代を重ねていくこと」。更には、魂は生き通しと教えられますように「それぞれ自身が代を重ねていくこと」。この二つの意味を合わせ持っているように思います。

親神様は、親にいんねんをつけて子の出てくるのを待ち受けておられる訳ですから、すでに道に引き寄せられている親のもとに子供として生まれてくるということは、どういうことなのかということを、親の立場からも、子供の立場からも思案させて頂きたいところであります。

親は親として、子供に親神様の思いを伝えること。また子は子として親神様の思いを求めることを怠っていては、申し訳ないことであるように思います。

親神様は、末代までもたすけてやりたい、末代にわたってお道の喜びを与えてやりたいという深い思召があります。そして、代を重ねて信仰していくうちに、段々と理が深くなり、悪いんねんも、白いんねんに切り替えて頂ける。このように教えられているのであります。

代を重ねることによって理が深くなっていくわけでありますから、私たち親よりも子供たちのほうが、より親神様の思いを深く理解出来るようになると言えるのではないでしょうか。子供達が、私たちの代では味わうことの出来なかった喜びを味わい、更なる成人へと進んだ姿を思うと本当に楽しみであります。

では、私たちはいったいどのように子供達へ信仰を伝えていけば良いのでしょうか。

おさしづに

「もう道というは、小さい時から心写さにゃならん。そこえ〳〵年取れてからどうもならん。世上へ心写し世上からどう渡りたら、この道付き難くい」（明治33年11月16日）

とあります。

幼い頃から信仰を伝えていくことの大切さを教えて下さっているおさしづで、私は幾度となく聞かせて頂いておりましたが、これまで大切な部分を見落としていました。それは「心写さにゃならん」と教えられているところであります。

私も何かにつけては、子供に信仰を伝えてきたつもりではありましたが、親神様は「心写さにゃならん」と教えられているのです。言い方を変えますと、「親の心が子供に写っていく」と教えられているように思案することができます。

信仰を言葉や態度で写していくことも、もちろん大切なことでありますが、それ以上に、信仰を伝える親の心が重要なのだということを、このおさしづを通して気づきました。

このように考えますと、少年会本部の活動目標が「信仰を伝えよう」ではなく、「信仰の喜びを伝えよう」。また「信仰のありがたさを伝えよう」と掲げられていることに、深く納得いたしました。

親が信仰に喜びやありがたさを感じていなければ、子供に信仰が伝わるはずがありません。

「口だけじゃあかんで」「格好だけじゃあかんで」と信仰を伝える親自身が「喜べているのか」「ありがたさを感じているのか」自分自身に問いかけながら、子供達と向き合っていきたいと思います。

さて、息子に「お父さんは、いつも自分の意見ばかり押し付けてくる」と言われたことから、私と子供は一方通行の関係だったことを反省し、子供たちと言葉を交わし、お互

いを理解し合えるように心掛けてきました。

あれから3年が経ち、親子の会話は増えてきましたし、このお道の教えについても少しずつお互い話ができるようになりました。

本年、教祖140年祭に向かっての年祭活動がスタートし、子供達にも年祭活動を我が事として通ってもらいたいと思い、無理だろうなとは思いつつも「何か心定めをしてもらいたい」と相談してみました。すると思いがけず長男から「家族みんなで毎月、歩いておぢばへ帰ろう」という答えが返ってきたのであります。

「個人の心定め」を考えるように言ったつもりでありましたので「家族みんなで」と言われたときは、「なんでみんなでやねん」と思わず口にしてしまいましたが、教祖の年祭に向けて家族揃って歩みを進める、そんな心定めがあってもいいのではないか、何よりも子供が年祭活動を前向きに捉えてくれたことが私にとっては大変嬉しいことでありました。

その子供の心定めに巻き込まれるかたちで、毎月、おぢばへ歩いて帰らせて頂くことが家族の年祭活動となりました。

今月も5日前に歩いておぢばへ帰らせて頂きました。その日は気温が高く、体力的にもかなり堪えました。来月、再来月は更に暑くなるんだろうなあと思うと、心が折れそうにもなりますが、昔の先人方は、どんな中も人のたすかりを思い、おぢばへ教祖の元へと足を運ばれました。そんな先人、先輩方の姿勢を少しでも見習い、身のまわりにお見せ頂く、身上や事情のたすかりを願い、親神様、教祖のもとへと帰らせて頂きたいと思います。

親神様、教祖のもとへと向かう、その一歩一歩の歩みが、一人ひとりの成人の歩みへと繋がることを楽しみに、お互いに励まし合いながら、心明るく勇んで、教祖の年祭に向け歩みを進めてまいりたいと思います。

最後になりますが、諭達第四号に、「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通り、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」と、述べられています。

教祖の年祭に向かう成人の旬は、子、孫へと信仰を繋いで頂ける絶好の旬だとも捉えて、しっかりと次の世代へと目を向けてまいりたいと思います。

おさしづに

「さあ〳〵続いてあってこそ、道という。続かん事は道とはいわん。言えようまい。」（明治39年5月21日）

とありますように、この道は、私たちの代で終わる道ではありません。終わらせてはならない道であります。教祖がお付けくだされた末代続くたすけ一条の道なのであります。

私たちが、道を繋ぐ努力をやめてしまえば、そこで道は途切れてしまうかもしれません。

次の代へとこの道を繋いでいくことは、先にこの道を歩む私たちの役割であり、責任だと思って、諦めることなく、繋ぐ努力を一歩一歩積み重ねてまいりたいと思います。

次の世代の子供達が、喜んでこの道を通れるよう、まずは私たちが親神様のご守護と教祖のお導きに、感謝と喜びの心をもって勇んで通らせて頂きましょう。

ご清聴ありがとうございました。

（文責・本島通信編集室）

訃報

大松峰分教会長　松下一司氏

松下一司氏（大松峰分教会2代会長）は去る6月13日午前0時1分、大松峰分教会にてお出直しになりました。享年65歳。

葬儀はみたまうつしを6月16日午後6時より、告別式を翌17日午前11時より、大分市内の葬祭場にて、宮路和徳・霊峰分教会長斎主のもと執り行われました。告別式に大教会長が参列されました。

松下一司氏略歴　昭和34年5月1日生まれ。昭和52年12月25日、おさづけの理拝戴。昭和57年3月27日、修養科第489期修了。昭和59年3月20日、教会長資格検定合格。同年4月19日、教人登録。立教155年4月26日、大駿峰分教会設立、初代会長拝命。立教155年11月22日、大教会神殿奉仕人指名。立教159年3月26日、大松峰分教会2代会長拝命。立教183年6月7日、大松峰分教会神殿移転建築落成奉告祭。教会長在職期間31年1ヶ月間。氏は赤峰分教会青年づとめを5年間勤めた後、単独布教から教会設立を御守護頂き、多くの部内教会や布教所の普請に従事し、最後に自教会の神殿落成を成し遂げられました。

六月月次祭 祭典役割

献饌長 井上哲

伝供 平井真治郎・篠原丕王・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・長尾海和・長濵充憲・岩橋秀一・田中丸勝也・鎌田典夫・山下英久・宮路和徳・位下道治・肥後章・上野作也・木村太喜・溝口晋太郎・橋口徹・大矢万三

雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平（順不同）

祭主	大教会長		
指図方	西山道教		
扈者	牧野道昭		
	岩橋竜造		
賛者	大上道徳		
	片山直明		
地方	岩橋慶三	大教会長	岩橋竜造
	老木邦光	片山勲	吉田晴雄
	西山道教	牧野道昭	雲庵道延
		会長夫人	井上哲
		片山やすゑ	篠原丕王
		池田さわみ	平井真治郎
			長尾澄子
			片山榮
			片山孝代
てをどり 座りづとめ	原口実	窪田靖明	横山富明
	奥村龍夫	永山晴明	長濵充憲
	長尾海和	永島宗行	伊東康成
		岩橋元実	向所隆文
		岡崎むつゑ	雲庵春彦
		谷口十糸子	高垣光治
			吉田要子
			原口和子
			白鳥有子
てをどり 後半	茶屋原良昭	後藤正治	香川勝巳
	岩橋秀一	吉田知彦	須崎晴道
	長門淳一	井上力	木村太喜
		永山みすゞ	滑川善久
		高垣洋子	岩橋守行
		佐藤道子	宮路和徳
			長尾善絵
			片山美穂
			梅木澄代
神殿講話	片山直明		

笛 ちゃんぽん
拍子木 太鼓
すりがね 小鼓
琴 三味線 胡弓

六月月次祭祭文

立教百八十六年六月二十二日

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様はこの世人間をお創め下されてより片時も途切れることのないお働きをもってお護りお育て下さり更に旬刻限の到来と共に教祖をやしろによろづいさいの真実を明かしたすけ一条の道をつけて陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない限りでございます

私共はこの大きな親心に包まれて届かぬながらも教祖の道具衆としてたすけ一条の御用を胸にひながたを心の指針として思召にお応えいたしたいと日夜御恩報じの道に努めさせて頂いております中に今日の吉日は当大教会の六月の月次祭を執り行う日柄を迎えましたので役目に与るおつとめ奉仕者一同心を済ませ一つ心に只今から座りづとめてをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

御前には今日を楽しみに帰り集いました教え子達が日頃賜わる厚き御恵みに御礼申し上げ尚も変らぬ御守護にお縋りする状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚この月から御本部神殿で拍子木を入れて日曜日・祝日・二十五日の午前十一時三十分より教祖百四十年祭に向けて心定めの完遂とおたすけなどの御守護を祈念する「お願いづとめ」をお勤め下されておりますが私共も出来る限り参拝させて頂き共々にお願いさせて頂きたいと存じます

又この月二十四日には「御供」や「日々月々の御供物」としてお使い頂けるお米の「お田植えひのきしん」にこぞって伏せ込ませて頂きます

更には又七月二十七日から八月六日まで「こどもおぢばがえり」が四年ぶりに開催されるに当たり少年会員に立派なようぼくに育つ素地を養わせて頂ける大切な活動でございますので身近な親しい人達へのお誘いに積極的に努めさせて頂く所存でございます

折しもこの月は本年の折り返しの月に当りますのでそれぞれの心定めの上に心新たに勇み心を添えて人たすけに励ませて頂きたいと存じます

何卒届かぬ私共ではございますが時旬の人だすけの輪が大きく広がり一人ひとりの歩みと共に陽気ぐらしの世の状を一日も早くお見せ頂きますようお連れ通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

（原文のまま）

入社祭

立教186年6月の入社祭はありませんでした。

6月22日（木）
【香川県丸亀市】

天候	曇一時雨
最低気温	20.5℃
最高気温	22.6℃
平均気圧	1003.9 hPa
平均湿度	89 %
平均風速	2.1 m/s
日照時間	0.0 時間
降水量	1.5 mm

※降水量は一日の総雨量

大裏地区田植えひのきしん

御本部の献饌物や御供米に使われる、親里の水田の田植えひのきしんを大教会長夫妻を始め50余名の帰参者で6月24日に行いました。

大裏地区は天理市豊田町に広がる水田一帯を指し、現在本部管財二課が管理しています。「大裏」は稿本天理教教祖伝逸話篇にも地名が記され（一六六「身上にしるしを」）、教祖ご在世中から中山家の水田として、お屋敷に住み込む先人が御用をつとめていたことが伺えます。

さらに大裏地区の水田の区割りや集落内を通る道幅は、教祖ご在世中と変わっていないと伝えられ、現代に至るまで管財二課の管理のもと、昔と変わらぬ手植えにより稲作が続けられています。

本島大教会では、教祖140年祭に向かう年祭活動の成人目標の一つに「おぢばへ帰らせて頂き、積極的にひのきしんを行う」を掲げ、本部とご相談の上、大裏地区での手植えひのきしんをさせて頂く機会に恵まれました。

ひのきしんに先立ち管財二課大裏農事係の森本孝一氏より、4月に本部で勤められる「萌出のつとめ」でかんろだいに供えられた種籾を、大裏の苗代にて育苗していること。大裏では6月より田植えが始まり、本島大教会が今年最後の田植えとなること等の説明がありました。

圃場（水田）は豊田公民館近くの2反で、すでに湛水し、代掻きを終え、手植えの目印を付けたロープが縦横3本設置され、すぐ田植えができる状態に整えられていました。

午前中、ひのきしん者は2つのグループに分かれ、1グループは苗代より苗を取り出して一掴みずつ藁で括る作業を行い、もう1つのグループは圃場に一列に並び、目印に合わせて手植えを行いました。

手にした苗を約3本ずつ、泥の中に植える作業も初めはぎこちなかったところ、声を掛けあいながら一手一つに行い、数列植えたところから能率も上がり、1反の田植えは約1時間で終わりました。

午後からは苗代となっていた圃場を代掻きして、最後の田植えを行いました。

なお稲刈りを10月24日にさせて頂く予定です。どなた様もご参加いただけます。

宮森先生おてふり稽古

世話人・宮森与一郎先生による「おてふり稽古」が6月25日午後3時より詰所4階講堂にて行われ、大教会おつとめ修練部委員をはじめ、役員・准役員・直轄教会長など25名が受講しました。

これはコロナ禍により中断していたお手直しを、3年7ヶ月ぶりに再開したもので、今後も不定期ながらも継続して行われることになっています。

稽古の冒頭、宮森先生はおつとめについて、「信仰の態度でのぞむこと」が大切で、特に三つの心を挙げられました。それは①素直な心（澄み切った心、親神様にもたれる心）、②一手一つの心（心を揃えること）、③勇んだ心（そばが勇めば神が勇む。おつとめで御守護頂くには、勇んで努めること）。

続いて基本的な手振りの動作、座りづとめの手ぶりについて、稽古しました。

なお次回は9月25日午後3時より行われる予定です。

青年会ひのきしん隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、おやさとふしん青年会ひのきしん隊第914回隊に出動。6月2日から23日までの期間中、金曜日と土曜日の8日間に、12名(のべ29名)が参加しました。

こどもおぢばがえり準備や大裏地区農作業のひのきしんに汗を流しました。

ひのきしん隊参加者名簿

▼本島△片山幹太郎△片山好次△片山秀明 ▼本米臺△内橋和博 ▼攝良△香川靖幸△香川高範 ▼攝津△鎌田康典 ▼安藝本中△池田恒治 ▼本備前△伊東賢太郎△伊東慎平 ▼本勇△井上周平 ▼マウイ△久尾将太 【計12名】

慶事(よろこびごと)

雲庵春彦(くもいはるひこ)氏(本九分教会長)と出田瑞穂(いでたみずほ)さん(豪峰分教会教人)の結婚式が6月28日、本部教祖殿にて執り行われました。

教会の掲示板第5回「定めてから治まる」本島ドットコムよりダウンロードできます

すき間のおはなし

瀬戸大橋塔頂体験談

瀬戸大橋が開通して35周年となる今年、瀬戸大橋を管理するJB本四高速が塔頂体験「瀬戸大橋スカイツアー」を実施しています。そこで4月13日に参加してきました。

ツアーはまず与島PA施設棟で説明を受けた後、アンカレイジ(橋台)内のエレベーターに乗り、海抜65㍍の鉄路と同じ高さの管理路を歩行し、さらに橋脚内部のエレベーターと狭い階段を登って、海抜約180㍍の塔頂までを往復する90分間です。

当日は黄砂の影響で見通しが悪いとされながらも、360度の大パノラマに大感激。目の先には本島大教会が、足元の集落には与島分教会が手に取るように見え、橋を走る車はごま粒より小さく見えました。

瀬戸大橋の建設と管理に携わった方による熱の入った説明に、心が動かされました。人の心を打つのは、理屈ではなく熱意なのだと思いました。

説明では、瀬戸大橋は国立公園内の架橋となるので、環境や景観を壊さぬよう建設には細心の注意が払われたこと。橋の色(ライトグレー)は日本画家の東山魁夷氏が決めたこと。橋の耐用年数は当初の100年から200年に延ばすため、橋をつなぐケーブル(径998㎜)の中へ常に乾燥させた空気を注入して結露しないようにしていること。鉄道部分は将来新幹線が走るためのスペースも用意していること。ところが新幹線の鉄路はまだないため橋が軽く浮いてくるので、橋脚付近に新幹線の鉄路と同じ重量の重りをわざわざ設置していることなど。

このツアーは今秋も実施されるようです。いつもと視点を変えるだけで、世の中には新たな発見に満ちています。

(むかいじょ)

青年会「こどもおぢばがえり特別隊」

【青年会本部】

おやさとふしん青年会ひのきしん隊

- **入隊期間**:
  第6回:7月3日(月)～8日(土)
  第7回:7月10日(月)～15日(土)
  第8回:7月17日(月)～22日(土)
  第9回:8月7日(月)～12日(土)
  第10回:8月14日(月)～19日(土)
- **入隊御供**:2,500円
- **対象**:青年会員またはOB
- **ひのきしん内容**:こどもおぢばがえりの設営・撤収、大裏農作業、おぢば周辺での営繕現場など
- **注意事項**:1週間を通して入隊できる方のみお申し込みください。初日は午前8時に百母屋集合、最終日は午後4時半頃解散
- お申し込みは青年会本島分会委員長(伊東賢太郎)まで

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

- **期間**:令和5年8月11日～8月15日
- **受講対象**:高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内については天理高校第Ⅰ部の自宅通学生に限り受講可)
- **募集人員**:700名
- **内容**:レクチャー、ひのきしん、おてふり、レクリエーションなど
- **集合**:8月11日正午(昼食を済ませてからご集合ください)詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- **解散**:8月15日午前11時頃(予定)
- **受講御供**:10,000円
- **申込期間**:5月25日～7月25日
- **申込方法**:要項をダウンロードしてご確認ください。
- **お問合せ先**:雲庵春彦090-2515-8039、横関茂治090-1138-1690

事情はこび

（立教186年6月26日）

本幸山（ほんゆきやま）分教会
任命願
新任教会長　後藤正樹
臨時祭典願
就任奉告祭　立教186年8月30日

以上

おさづけの理拝戴

（立教186年5月分）

パシフィックコースト
アダム・タケル・モンテロンゴ
デレック・ヒデキ・モンテロンゴ
本小倉　福間栄子
【計3名】

修養科第982期修了

（立教186年6月27日修了）

本花　奥村ちはる
雄福峰　田邊桃佳
鶴峰　尾関貴信
【計3名】

教人登録

（立教186年5月分）

与島　岡﨑希恵
【計1名】

をびや許し

（立教186年5月分）

本肥港　上潟口初美
【計1名】

証拠守り下附

（立教186年5月分）

本萬代1
【計1名】

大教会長動向

▼7月（予定）▲

1日～18日、修養科教養掛
22日、大教会月次祭執行
24日、修養科門出まなび
25日、かなめ会委員会
26日、本部月次祭参拝
27日～8月6日、こどもおぢばがえり
30日、本島団鼓笛隊総会

以上

布教部報告（6月分）

布教部では全教会提出（提出教会数の増加）を目指しています。右側の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。
なお従来の「にをいがけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

にをいがけ名簿提出教会（6月）

樺太	5	本千賀	3	神峰	2
本倉岡	6	本千治	2	豪峰	6
本陸奥	2	本千恵	2	倉峰	6
本樺	6	本平濱	2	大雄峰	1
本室	6	本太	2	雄福峰	1
渋谷	5	安藝本中	1	雄山峰	4
御幸濱	2	本府中	6	栄森峰	5
代々木	4	沖浦	1	栄東峰	6
本萬代	5	本清水	3	霊峰	6
本都	6	崇徳	6	實峰	5
本京	6	与島	3	大駿峰	2
本護	3	本勇	3	文峰	3
本惠	3	本宣道	6	肥後八峰	2
本惠明	3	本小倉	1	銀峰	3
本静森	2	本陽山	6	新信峰	1
本日米	3	本新田	5	鶴峰	3
本米	2	赤峰	6	都峰	3
本米臺	1	雅峰	4	仙峰	6
本米里	1	南峰	2		
本千代	6	吉峰	3		
計58教会		425名			

おさづけ取次報告教会（6月）

本島	5	本千賀	1	本陽山	6
樺太	5	本千治	1	本肥港	2
本倉岡	6	本千恵	3	本新田	2
本陸奥	2	本平濱	5	本九台	2
本樺	6	本攝	3	赤峰	6
本室	6	攝津	5	雅峰	4
渋谷	5	本吹田	2	吉峰	3
御幸濱	2	攝泉	3	豪峰	5
本萬代	5	本太	2	倉峰	6
本都	1	本萩	2	大雄峰	1
本京	6	本幹	1	雄福峰	1
本道盛	1	本水島	6	栄森峰	2
本三	2	安藝本中	3	霊峰	6
本惠	3	本備前	6	實峰	3
本惠山	2	本迪	2	大駿峰	3
本惠明	3	本府中	6	文峰	3
本浜	3	沖浦	1	肥後八峰	2
本米	2	本清水	3	銀峰	3
本米臺	1	崇徳	6	新信峰	1
本米里	1	与島	3	鶴峰	3
本米浜	2	本廣	3	仙峰	6
本千代	6	本小倉	1	マウイ	2
計66教会		1,503回			

統　計（5月1日～31日）

教会名	初席	中席	おさづけ	修養科	教人講習	検定講習
本惠				1		
本千代	1					
パシフィックコースト	3	3	2			
本水島		1				
本小倉			1			
神峰	1	1				
倉峰	1					
大駿峰		1				
別峰		1				
吉松峰	1	1				
ラナイ	1	1				
合計	8	9	3	1	0	0

ろくぢ会

（立教186年6月分）

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太　▼樺太分教会　▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉　▼本浜△片山清枝・正枝・誠　▼攝泉分教会　▼崇徳分教会　▼本高分教会　▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

第110回本島団鼓笛隊夏季合宿

【本島団鼓笛隊】

- **期間**：7月26日(水)午後2時集合
  7月30日(日)午後3時頃解散
- **会場**：本島詰所
- **参加対象**：小学1年～高校3年生までの男女
- **内容**：前夜祭(29日)、鼓笛お供え演奏・オンパレード出演(30日)、こどもおぢばがえり諸行事参加
- **参加費**：7,500円(宿泊費・食費含む)
- **携行品**：要項をダウンロードしてご確認ください。
- **申込み**：参加の連絡は7月10日まで各分隊担当まで
- **お問合せ先**：鎌田典夫
  (℡ 06-6432-1727)

立教186年こどもおぢばがえり

【少年会本部】

- **期間**：7月27日(木)～8月6日(日)
- **留意点**：

◇全教会に要項とID、パスワードをお渡ししています。
◇本年のこどもおぢばがえりは、インターネットでの申込みとなります。
◇全教会に配布する教会IDで、帰参予定人数とカレー食数の申込みを行ってください。
◇カレー食数には制限があります。
◇行事参加の事前申込みはありません。帰参当日に各会場にて受付を行ってください。
◇夕づとめ後には南参道のライトアップが予定されています。
◇以前のこどもおぢばがえりとの変更点がありますので、要項を十分にご確認ください。

https://www.honjima.com/

は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。
トップページ＞各種ダウンロード

MOMOの会

【婦人会本島支部】

- **日時**：7月29日㈯
  午前10時～午後4時30分
- **会場**：本島詰所北棟1階大広間
- **内容**：女鳴物勉強会(三味線や胡弓の糸の付け方、琴の調弦、弾く前の準備や片づけなど)
- **持ち物**：琴の爪
- **お申込み**：QRコードからお申込みください。

※本島鼓笛隊夏季合宿中の開催となります。
※ＭＯＭＯの会は、若いご婦人さんや少年会員を子育て中のお母さんを対象にした会です。
※ 託児を行います。小さいお子様をお連れのお母様、また未婚の方、ご高齢の方、どなた様もご参加いただけます。

- **お問合せ**：永島すすみ、平井由紀子、片山美穂

学生会サマーキャンプ

【本島学生担当委員会】

- **期間**：8月17日㈭～19日㈯
- **会場**：本島大教会
- **内容**：あらきとうりょう入門塾、ひのきしん、海浜行事ほか
- **お問合せ**：雲庵春彦担当委員長

第33回総会と夏のつどい

【少年会本島団】

立教186年少年会本島団総会と夏のつどい

- **期日**：8月21日㈪
  午前10時受付～午後9時解散
- **会場**：本島大教会
- **対象**：少年会員(未就学の少年会員には引率者の付き添いをお願いします)
- **参加御供**：1,000円
- **携行品**：ハッピ(準備できる人だけで結構です)、健康保険証、マスク、帽子、タオル、お風呂道具、着替え、ビーチサンダル、水着
- **諸注意**：発熱、体調不良の場合は参加をご遠慮ください。引率者の中で可能な方は海水浴の監視をお願いします。宿泊はそれぞれの部屋でお願いします。プログラム途中までの参加でも可能です。

こかん様に続く会

【婦人会本島支部】

- **日時**：7月28日㈮ 時間未定
- **会場**：本島詰所

※本島鼓笛隊夏季合宿中の開催となります。
※「こかん様に続く会」は、少年会員を終えてから18歳までの女子青年が対象です。

7月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉
- **期間**：7月21日～22日
- **派遣**：安藝本中

〈詰所・食堂ひのきしん〉
- **期間**：7月25日～26日
- **派遣教会**：本室、本攝

〈本島鼓笛隊夏季合宿ひのきしん〉
- **期間①**：7月26日～30日
- **派遣教会①**：渋谷、本攝、本篠、本承徳、本九、赤峰各教会1名

〈こどもおぢばがえりひのきしん〉
- **期間②**：7月31日～8月1日
- **派遣教会②**：撫川、琴浦、本高、赤峰各教会1名
- **期間③**：8月2日～3日
- **派遣教会③**：本岡、安藝本中、本勇、赤峰各教会1名
- **期間④**：8月4日～6日
- **派遣教会④**：本攝、同朋、与島、赤峰各教会1名

大教会7月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- **対象**：7月22日大教会7月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- **申込方法**：
  メールで、**live@honjima.com**に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- **申込締切**：7月21日午後5時まで
- **ご注意**：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。